



皆さんお元気ですか。今回は私の父のお話をします。父は昭和二十年生まれの七十四歳。かかりつけの病気はなく、見た目は健康で千葉で私の母、妹と元気でおりました。毎日お菓子を沢山食べ、数年前に受けた健康診断では悪玉コレステロールが高く病院受診を勧められるも無視。でも自分の健康には自信を持ち毎日数時間散歩していました。しかし、そんな父にも静かに病魔が忍び寄っていたのです。



今年の一月三十一日、朝七時、慌てふためいている妹から電話がありました。父が自宅で倒れた、胸を苦しがついて吐いていて重症だ、ということではすぐ救急車を呼ぶように言いました。すると、『救急車は何番???』と聞くので『一一九だよ』と言うと、

『それ警察でないの?』と素っ頓狂なことを言います。『警察は一一〇ですよ、すぐ一一九に電話!』と答えつつも、普段冷静な妹がかなり動揺しているの、これはただ事ではないな、と思いました。しばらくして救急隊が到着。自宅から近くにある東京女子医大八千代医療センターという大病院に搬送されました。検査の結果、急性心筋梗塞という病気で、心臓の太い血管が詰まっていて、大至急心臓カテーテル治療

を要するとの診断でした。危険な状態で最悪の場合は死亡してしまうこともありうる。先生から妹に説明があり、泣きながら状況を私に伝えてくれました。急性心筋梗塞は非常に恐ろしい病気で、私が医師となって二十三年目になりますが、突然心肺停止状態になってしまった、という方を数人経験しております。



父も心臓カテーテル治療中に不整脈がでて一時心停止してしまいましたが、無事詰まった血管にステントを入れることができて一命をとりとめました。翌日も説明を受け、担当の先生が非常に優しく、信頼できる方で安心いたしました。父の血液検査の結果を聞いて驚きました。悪玉コレステロールの数値が正常値一四〇までのところ、なんと二三三もありました。おまけに五五歳頃より禁煙しているものの、それまでは一日二〇から四〇本は煙草を吸っていたと思えます。心臓の血管は動脈硬化で細くなっている所が多々ありました。さらに母から父の発症までの状況を聞く

と…、前日些細なことで母

に対して怒りまくったようです。立腹した後に父はいつもの散歩に行っていたのですが、非常に寒い日でした。歩いている時に、何か胸が変だな?と感ずることがあるも、まさか心筋梗塞なりかけとは思わずに散歩を続けたそうです。就寝時は異変ありませんでしたが、翌日朝に発症となってしまいました。

その後の父は集中治療室から一般病棟に移り約一か月後に退院、元気にしてお

ります。先生から心筋梗塞、高脂血症について、普段の生活の大切さ、運動もしすぎると逆に良くないこと、数種類の薬をきちんと飲み続けて今後定期的に通院する必要がある、という説明をされ、また栄養士からも栄養指導をうけました。今は優等生の生活習慣を続け、悪玉コレステロールの数値は五十台になっております。『お菓子を自由に食べれないなら死んでもいい』、と言っていたのに、死の危険を体験すると人間変わるんですね。



今回のことから①健診は毎年受ける。②結果は無視しない。③医学的にも証明されていますが、怒ると心筋梗塞になりやすいので、なるべく怒らないように。以上を皆さんにもお伝えしたいと思えます。皆さんの健康にお役立ち出来たら嬉しい限りです。

■お問い合わせ

町立下川病院

☎・☆4-2039

